

# 感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2023年第45週 (11月6～12日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

## ●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2023年第1週から)

疾患名	報告数	累積
<b>[1類]</b>		
(報告なし)		
<b>[2類]</b>		
結核	233	12372
<b>[3類]</b>		
コレラ		2
細菌性赤痢		35
腸管出血性大腸菌感染症	52	3405
腸チフス		35
パラチフス		8
<b>[4類]</b>		
E型肝炎	4	464
A型肝炎	2	49
エキノコックス症		12
エムポックス <sup>1)</sup>	4	213
オウム病		8
回帰熱		21
コクシジオイデス症	1	3
ジカウイルス感染症		1
重症熱性血小板減少症候群		128
チクングニア熱		7
つつが虫病	33	170
デング熱	6	144
日本紅斑熱	7	482
日本脳炎	1	5
ブルセラ症		2
マラリア	1	28
ライム病		29
レジオネラ症	40	1989
レプトスピラ症	2	47
<b>[5類]</b>		
アメーバ赤痢	3	422
ウイルス性肝炎 <sup>2)</sup>	4	212
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 <sup>3)</sup>	32	1793
急性弛緩性麻痺 <sup>4)</sup>	1	51
急性脳炎 <sup>5)</sup>	8	516
クリプトスポリジウム症		11
クロイツフェルト・ヤコブ病	3	137
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	17	731
後天性免疫不全症候群	15	806
ジアルジア症		35
侵襲性インフルエンザ菌感染症	6	475
侵襲性髄膜炎菌感染症		15
侵襲性肺炎球菌感染症	38	1531
水痘 (入院例に限る)	4	323
梅毒	201	12965
播種性クリプトコックス症		150
破傷風	4	96
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3	109
百日咳	22	854
風しん		11
麻疹		25
薬剤耐性アシネトバクター感染症		13

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

## ●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ <sup>6)</sup>	85766	17.35
新型コロナウイルス感染症	9941	2.01
RSウイルス感染症	205	0.07
咽頭結膜熱	10173	3.23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10523	3.34
感染性胃腸炎	11671	3.71
水痘	427	0.14
手足口病	2301	0.73
伝染性紅斑	32	0.01
突発性発しん	762	0.24
ヘルパンギーナ	377	0.12
流行性耳下腺炎	139	0.04
急性出血性結膜炎	5	0.01
流行性角結膜炎	644	0.92
細菌性髄膜炎 <sup>7)</sup>	9	0.02
無菌性髄膜炎	10	0.02
マイコプラズマ肺炎	34	0.07
クラミジア肺炎 <sup>8)</sup>	1	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) <sup>9)</sup>	1	0.00
インフルエンザ (入院患者)	548	—
新型コロナウイルス感染症 (入院患者)	816	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

## ●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	佐賀、山梨、長野
新型コロナウイルス感染症	↓	北海道、長野、山梨
RSウイルス感染症	↑	北海道、京都、山形
咽頭結膜熱	↑	福岡、奈良、佐賀
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	鳥取、宮崎、山口
感染性胃腸炎	↑	福井、熊本、大分
手足口病	➡	佐賀、長崎、秋田
伝染性紅斑	↑	香川、岩手、茨城、石川、大分
ヘルパンギーナ	↑	熊本、山形、高知
流行性耳下腺炎	↑	宮崎、和歌山、奈良
マイコプラズマ肺炎	↑	福井、沖縄、茨城

## ◆5類感染症 (定点当たり報告数)

インフルエンザの定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は第36週以降減少が続いている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第42週以降増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。